

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4774000066		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	沖縄県糸満市字真栄里323番地		
自己評価作成日	平成29年 8月 6日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=471000066-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成29年 9月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた小高い場所に位置し、入居者定員9名、デイサービス(共用型)3名の小規模な施設です。大家族のような雰囲気の中で、職員と入居・利用者様が密な時間を共有し、一人ひとりがその人らしく生活できるよう職員一丸となって支援しています。入居者・利用者様が日常の生活の中で持てる力を発揮できる生活リハビリ、特技や趣味を生かした、ピアノ伴奏、琉舞、又、近隣幼稚園への週2回の花の水やり訪問は11年続き、幼稚園の諸行事に招待されるなどかわいい園児たちとの交流は楽しみの一つとなっています。又、今年は喜屋武ハーリーへの出場や喜屋武地域ミニデイへの参加で新たな交流の場を広げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は、集落から離れた小高い丘に立地しており、開設17年を経過している。共用型指定認知症対応型通所介護の提供として3名受け入れている。事業所の理念に基づいて、上司が求める理想の職員像として協調性・積極性・リーダー性・明朗性創造性を掲げ、家庭的な雰囲気作り心がけている。3食の食事は事業所で調理し、昼食は専任調理員が調理している。利用者の嗜好や旬の食材を取り入れ臨機応変に提供し、利用者の食事への満足度が高い。介護計画は利用者のニーズを8、9項目も位置づけ、きめ細かな内容で策定し実践につなげている。介護職員は男女半々で構成されている。職員の提案でハーリー隊を編成し、利用者・家族の応援を受け、地域のハーリー競技に参加するなど、職員間のチームワークも良く、事業所内の雰囲気作りの一助となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の勤務表に理念を明記、廊下掲示板に事業所理念と職員個々の理念を掲示、又、毎月のミーティングで折に触れ理念の確認をし、共有と実践につなぐことが出来るよう努力しています。又、パンフレットや定期的に発刊することぶき便りに理念を掲載し周知を図っています。	理念の共有と実践については、開設当初から、自立支援や完全受容の精神など6項目の理念を掲げて、理念の共有と実践に努めている。毎月の勤務表には、事業所の理念と職員個別の理念が明記され、職員は理念に裏打ちされた支援を心がけている。地域密着型サービスとして、事業所の社会的役割を踏まえた理念の検討を期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣幼稚園への週2回の水やり、幼稚園と寿の合同こいのぼり掲揚式、幼稚園児との定期的な交流会、喜屋武ハーリーへ職域として参加、喜屋武地域ミニデイへ参加、糸満大綱引き見物、那覇マラソン応援、近隣スーパーへの買い物など事業所事態が地域の一員として日常的に交流できるよう努めています。	事業所と地域とのつきあいについては、事業所周辺に民家が少なく環境の中、近隣幼稚園に定期的に利用者と一緒に出向き交流を継続している。利用者の出身地のハーリー等へ出かけたり、定期的に馴染みの店に出かけ、好きな食べ物等の買い物をしている。地域のミニデイサービスに管理者が出向き、認知症についての講話を行っている。さらに、近隣地域での活動も検討しており、実践を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生実習・地域中学生の福祉体験学習の受け入れ・地域幼稚園児との交流・地域ミニデイ出前講座などで、認知症の人の理解や支援の方法を地域に活かせるよう努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族(輪番)・地域・行政等の代表を交えた報告会・話し合いが行われ、そこでの意見やアイデアが問題解決やサービス向上に活かされている。また、家族の方が面会に来られた際に議事録を見ていただくよう声掛けしている。	運営推進会議を活かした取り組みについては、認知デイと合同で年6回定期的に開催され、利用者や家族、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、民生委員、元計画作成担当職員が参加している。会議では利用者状況や事故報告等があり、委員から感染症予防としてウォシュレット便器設置の提案もある。4月と12月の会議は、幼稚園児との交流、クリスマス・望年会の行事参加となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場のみならず、日頃から市担当者との問題解決に向けた報告相談を行い協力関係を築くよう努めています。	市町村との連携については、運営推進会議に毎回行政の地域包括支援センター職員が参加し情報交換している。グループホームの状況や共用型指定認知症対応型通所介護の利用者に関すること等、日頃から市担当者と連携している。代表者は市や社会福祉協議会の運営するケア会議などの委員として継続し活躍している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや施設内勉強会、研修への参加を行うことで身体拘束をしないケアが浸透しています。また、日常のケアで疑問や気づきが生じたらその都度話し合い身体拘束をしないケアの実践につなげています。	身体拘束をしないケアの実践としては、外部の研修参加や年1回、施設内勉強会も実施している。利用者の状況により、居室入口をセンサーで対応したり、今年から就寝中のみベッド柵を行っている利用者があり、家族にはその旨口頭で説明し同意を得ているが、文書による同意書はない。	緊急やむを得ない場合の身体拘束については、その必要性や時間帯等、手順に沿って家族へ説明し文書での確認及び実施記録、定期的な検討会議を行うとともに、身体拘束をしないケアの検討及び工夫が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に高い意識が持てるよう研修への参加や日頃から職員間で注意・喚起しながら支援を行っています。	虐待の防止の徹底については、高齢者虐待及び身体拘束・権利擁護に関する外部研修に参加している。事業所内では不適切なケアについて勉強会を実施し、虐待について理解しており、日々の支援でも見過ごされないよう職員間で注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会を実施、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できる支援に努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、内容の改定時、解約の際はその都度説明を行い、理解納得を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議、担当者会議等の場において意見や要望を求め、それらを運営に反映させています。又、日頃より家族との連携を密にし、家族が話しやすい関係作りに努めています。	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、利用者から食堂で過ごす際に暑いとの訴えがあり、クーラーを設置している。家族から散歩を増やしてほしいとの要望で1回から2回に増やしたり、食事時のお膳拭きを促している。家族会を年2回設け、行事参加や意見、要望等を聞く機会としている。家族会の実施記録が期待される。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや朝・夕の申し送りの場で意見や提案を聞く機会を設け反映させている。又、定例で行われる業務終了後の勉強会や職員懇親会も職員の意見や要望を聞く機会となっています。	運営に関する職員意見の反映については、日々の申し送り時や全体ミーティング、毎月の懇親会模合等で聞く機会としている。職員の意見でハーリー隊を結成し、糸満ハーリーに職員、家族で競技に参加し、利用者も見学に出かけている。職員から地域のミニデイ参加の意見が出る等、職員は積極的に事業所の運営に参加している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の個性、特技、努力や実績、勤務状況、家族状況等を把握し、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働きかけるような職場環境・条件の整備に努めています。	就業環境の整備については、代表者は職員が働きやすい環境づくりを一番に考えており、職員のチームワークがより良い支援に繋がると考え、日常的に管理者及び職員をサポートしている。職員の7割が正規職員であり、労働条件を整えている。毎月の懇親会模合を通しお互いを理解し、職員間で声かけ、手伝い、気配りし、笑顔で働ける環境を目指している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員個々の力量を把握し、法人外の研修の確保や施設内研修を行い、資質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上を目的とし、県GH連絡会の研修会、社協・福祉関係事業所が主催する行事に参加する機会を作っています。そこでの同業者との交流が情報交換やネットワーク作りにつながっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際は、本人の要望等を細やかに傾聴、全職員が本人の状況を共有し安心していただける信頼関係作りを努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族が困っている事や不安なこと、要望等を傾聴し信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時には家族にも参加していただき、意向が十分反映できるように取り組みます。又、サービスの優先順位を見極め、事業所内で対応できないサービスについては外部のサービスの利用を検討していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として敬意を払い、一人ひとりの個性を尊重しつつ、時には、利用者に励まされ、寝食を共にする大家族のような関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との連絡を十分に図り、面会、病院受診の付き添い、事業所が行うイベントへの参加の声掛け、ケアプランの共同作成等、本人と家族の絆を大切にしながら共に支えていく関係を築いています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所へのドライブ、行きつけの店での買い物、通いなれた病院、毎月仏壇行事で帰宅する利用者、ひ孫の学校行事に参加する利用者、友人・知人が気軽に面会できる環境作り等、家族と協力しながら支援しています。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、利用者の地元のハーリー見学に出かけたり、その地域の利用者をミニデイに参加させることで、昔馴染みの場や知人との出会い、関係性の継続に努めている。行きつけの店での買い物や旧盆等、仏壇を拝みに出かけた、子ども宅に毎月1泊する利用者、孫の結婚式への参加、子どもに電話や手紙でやり取りする等、地域のみならず家族との関係継続を支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格、友達関係を把握し、席の配置や孤立者がいないよう利用者同士が関わり合い、支えるような関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者や家族に対して、これまでの関係性を大事にし、機会に応じ、面会、経過の確認や相談支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで、本人・家族を交え話し合い、希望・意向の把握に努めています。又、意思表示が困難な利用者に対して、普段の生活の中で表出される思いを受け止め本人本位に検討しています。	思いや意向の把握については、日頃から利用者の発言や表情等で把握に努めている。職員は利用者の担当として割り当てられ、担当者は利用者の思いの把握や家族との連絡、衣類等の補充を行っている。昨年頃から1人の利用者から「家族の墓を探したい」との要望を受け、行政へ問合せたり、本人の話をもとに一緒に探すが見つからず、平和の礎に出向き、親の刻銘を見つける支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前のアセスメントや日頃のコミュニケーションの中からこれまでの生活史や生活環境の把握に努め、支援に反映させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを尊重しながら心身の状態や能力を把握し、利用者一人ひとりが有する能力を発揮できるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議は、本人・家族が参加し思いや趣味・役割等を反映した介護計画を心がけ、遠方におられる家族には電話で意向を確認しています。3か月ごとにモニタリングを実施し現状に即した支援計画作成に努めています。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、モニタリングは定期的に行われ、サービス担当者会議は半年毎に本人・家族が参加し、担当者が目標の達成状況や満足度等の評価を行い会議に臨んでいる。会議後は、介護計画のニーズ内容や支援内容を見直し、変更内容は赤字で記載し全職員が把握できるようにしている。親の墓を探したい等の個性的なニーズもあり、実施記録も記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護日誌に様子やケアの実践・結果・気づきを記録し職員間で共有している。介護日誌以外にも職員連絡ノートを活用し情報共有や実践・介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的なモニタリングや家族状況の変化等、ニーズに即した支援を心掛けています。また、外食希望・平和の礎の慰霊希望の利用者さんに職員が付き添って出かけるなど柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の出身地の地域ミニデイへ参加する、親戚・友人・地域の行事・馴染みの場所等、本人の関係性を把握しその関係性が途絶えることなく、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援に努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医を継続し受診、事業所からの情報提供を行う等、かかりつけ医との信頼関係を構築し適切な医療が受けられるよう支援しています。	利用者はかかりつけ医や認知症外来を受診し、職員も助言を得ている。月2回の訪問看護が健康管理を担い、毎回の状態を記録し、医療機関に繋げたり職員の健康相談に応じている。定期受診は家族対応としているが、行動等説明を要する場合は職員が同行している。受診結果や健康状態を家族に口答で情報提供し共有している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で把握した情報や気づきは些細なことでも職員間で周知・共有し月2回の訪問看護師に報告・相談し受診やケアにつなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院の際の情報提供やカンファレンスに参加し、本人が適切な治療を受け、早期退院や退院後に安心した生活が送れるよう病院関係者との関係作りに努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	半年に1回の担当者会議で、家族と話し合う機会を設け、家族の安心と納得が得られるためにも職員間の方針の共有、更に、研修、勉強会を実施し訪問看護師や地域の関係者と共に支援に努めます。	「重度化した場合の対応及び看取りケアの指針」が作成され、職員は指針を理解している。利用者・家族へは介護計画見直し時の担当者会議で方針を説明している。これまで看取りの実績がなく、他の事業所の実践報告を研修としている。看取りについては、介護と医療機関及び家族等において、訪問看護を中心に、検討することを今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時等に備え、対応手順マニュアルを作成し職員への周知を図っています。又、日常の介護を通しながら実践力が身につくよう努めています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定した避難訓練を年2回実施し利用者が安全に避難できるよう努めています。又、地域との協力体制が取れるためにも普段からの関わり強化に努めます。	毎年の消防設備点検を実施し消防署へ届け出ており、火災時の避難や消火等の自主訓練を、今年は昼間想定で2回実施している。抜き打ちの訓練では、避難誘導に10分程かかり課題が残っている。非常用食糧を2日分程備蓄している。夜間を想定した災害訓練が未実施である。	事業所の立地環境は、集落から離れ周囲は雑木のある高台であり、夜間の災害対応が懸念されることから、夜間を想定した災害時の避難訓練の実施が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、個性を受け入れ常に誇りが持てるよう、そしてプライバシーを侵害しないような対応を心掛けています。	理念に「個性を尊重」「あるがままを受け入れる」等を掲げている。職員は、常に利用者は「人生の先輩である」という事を念頭におき、個々の個性を認める支援に当たるようにしている。3か月程前までは、ミーティングや連絡会等は、利用者も一緒にテーブルで行っていたが、個人情報保護の観点から会議時間や場所等の見直しが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々に合わせたコミュニケーションを大事にし、自分の思いや意向を表出できない利用者に対してはコミュニケーション以外の行動で本人の意向が確認とれるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中にあっても、一人ひとりの意思やペースを尊重し、職員の都合を強いることのない対応を心掛けています。出来るだけ毎日を希望に沿った支援が出来るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中での身だしなみや定期的な美容支援、また、行事等にあっては晴れ着やお化粧を楽しみ、リフレッシュできるよう支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、食事が楽しみとなるよう支援しており、個々の能力が発揮できるよう職員と一緒に食事作りや準備片付けを行っています。	食事は、事業所で3食調理し昼食は専任調理員が行っている。献立表はなく、利用者の嗜好や準備された食材等で工夫し臨機応変に対応している。陶器やガラスの器、盛り付けの彩りと、見た目に食欲をそそる工夫をしている。毎食前に温いおしぼりを提供している。利用者は、自主的に下膳等、できる範囲で参加している。食事は職員も一緒に摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や食事形態、健康状態を把握し、栄養バランスを考慮したメニューを工夫しています。又、水分摂取量の記録をし必要な量の水分摂取が出来るよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者が口腔ケアできるよう声掛けや誘導を行い、一人ひとりの状態を把握し本人の力に合わせた支援を心掛けています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすことを目標に一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレで排泄が出来るよう支援しています。又、日中は紙パンツに頼らずに布パンツのみ、あるいは布パンツに尿パットと利用者に合わせて支援を心掛けています。	排泄チェック表を記入し、個々のパターンを把握している。気持ちよく排泄するために、ウォッシュレット便器を1台設置し使用している。便秘対策として個別計画に位置づけ、排泄時には便座への臀部の上げ下げの声かけや下剤服用等の支援が行われている。排泄時の露出部が見えないよう、衣服で覆う事も配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し排泄チェック表や職員間の申し送りで利用者一人一人の排便状況を把握し、飲食物(繊維の多い食物や牛乳等)の工夫や運動への働きかけを行っています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の希望する時間や同性介助を実施し入浴が楽しめるよう努めています。	入浴は、週3回を基本としているが、利用者の希望に応じ臨機応変に対応している。入浴の手順に拘りがあり、毎回40分程かけて入浴する利用者もあり、本人の習慣に対応している。入浴を嫌がる利用者は、介護計画に位置づけ、入浴日や職員を替える、声かけの工夫等を明記し、職員間で対応方法を共有している。同性介助を希望する1名には対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時々状態(体調不良・夜間不眠等)に応じて休息していただき、又、安眠出来るよう支援しています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の処方薬を理解するよう努め、新しく処方された薬、薬に変更があった場合等、職員全員で症状の変化や確認をし、利用者が健康で過ごせるよう支援しています。	職員間で服薬担当を決めている。利用者各自の薬箱があり、担当が配薬している。服薬方法は、利用者により薬を直接手渡したり、口元まで介助している。職員が床に落ちている薬に気付く事もある。職員全員が薬の内容(目的・用法・用量・副作用)を理解するとともに、誤飲、飲み忘れ等がないよう、服薬マニュアルの整備と職員の周知徹底が期待される。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力を活かした役割、楽しみ事、嗜好品を把握し生きがいのある日々が過ごせるよう支援に努めています。(琉球舞踊披露・ピアノ演奏披露・嗜好品の買い物・図書館へ本の貸し出し・イベントでの飲酒等)		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、本人の要望に沿って戸外へ出かけられるよう努めています。又、家族の協力を得ながら家族と外出する機会が増えるよう支援しています。	週2回の買い物日を設定し、大型スーパーや拘りの店等へ出かけ、好みの菓子や天ぷら、コーヒー等の品を購入している。定期的に家族と外出し、外食する利用者もいる。全員で地域の馴染みのあるハーリーや綱引き行事等に出かけている。受診以外は団体での外出が多く、今後は個別の希望を介護計画に位置づけし、その実践に向けた検討及び実践を期待したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解できる利用者においては、家族の協力を得、適切な金額を所持し、個々の希望に沿った使い方の支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外在住の家族と毎週日曜日の電話のやり取りや手紙を送ることが出来るようお手伝いし、家族に会いたがる利用者には本人自ら、電話を掛ける支援をしています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の四季折々の花、障害物のない廊下、利用者の集うホールは風通しが良く明るい。居心地の良い空間づくりに努めています。誕生会・敬老会・クリスマス会・浜下り・夕涼み会等の年中行事を開催し、生活感、季節を感じられるようにしています。	高台に位置する事業所で、敷地内や玄関先は四季の草花で季節感があり、室内は風通しも良い。廊下の天窓は明かり取りとなっている。廊下やホール壁には、利用者の共同作品や習字、塗り絵等の作品や事業所の機関誌・連絡もの等、所狭しと飾られている。トイレはウォシュレット便器が1台設置され、快適さに繋がる対応がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に利用者一人一人の居心地に留意し必要に応じて席替えを検討するなどの支援をしています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのダンスや鏡台、テレビ、ラジオ等があり、家族の写真や本人お気に入りの写真自作の作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	居室は、ベッドをはじめ自宅で使用していた馴染みの品の持ち込みが自由となっている。それぞれ自由にレイアウトされ、整理ダンスの持ち込みや家族の写真等が貼られている。自宅と同様の部屋作りの希望があり、畳を持ち込み和室にレイアウトしている利用者もあり、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者が安全且つ、出来るだけ自立した生活が送れるようバリアフリーで手すりを設置、利用者の動線に合わせた家具を配置し暮らしやすいように支援しています。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム寿

作成日 : 平成 29 年 11 月 23 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	他の事故防止策を尽くしたうえでなお必要とされる就寝中のみベッド柵を行っている利用者への対応。	拘束マニュアル見直しと周知の徹底	記録と月1回の定期的なカンファレンスを実施し再検討をしていく。記録内容は常に情報共有していく。	12ヶ月
2	35	災害時を想定した避難訓練を年2回、日中に実施している。夜間の災害は、日中とは対応が違ってくるため夜間想定での避難訓練が必要である。	夜間想定での防災訓練の内容を職員全員で話し合い、計画を立てる。	夜間想定での避難訓練を実施、更に、対策検討を重ね、定期的な訓練へと結び付けていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。